



もっと考えよう!藤沢市文書館(2)

2023.12 Our Project 「マスタープラン」追記文にみる「文書館の基幹業務」考察

国際資料研究所 小川 千代子

■藤沢市文書館とは(既報)



2023年8-9月藤沢市による Our Project マスタープラン素案へのパブリックコメント募集では、文書館のあり

かたについて30通を超える意見が集中したことは、本誌136号でも紹介した通りだ。それは、専任館長の配置を求めただけのものではない。約50年前に、日本で最初の基礎自治体の文書館として設立された藤沢市文書館は、文書館界での知名度は非常に高い。また、藤沢市文書館は、その機能として行政文書の保管保存を行うなど、先進的な活動をしてきたことでも知られている。その藤沢市が誇る藤沢市の誇り、藤沢の宝である所蔵資料をこの50年間、確かに保管維持管理並びに利用提供してきたのは、博物館や資料館が未整備の藤沢市では、藤沢市文書館にほかならない。

■文書館の業務～藤沢市の誇りと地域の宝を守る

昭和49年7月1日付制定の「藤沢市文書館条例」を見ておこう。これは全体が4条で構成される短い条例だ。その第3条を以下に掲げる：

(業務)

第3条 文書館は次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) この市の歴史資料の収集、整理、保存、調査、研究及び一般への閲覧
- (2) この市の行政資料の収集、整理、保存及び研究並びに市長が別に定めるものを除いた資料の一般への閲覧
- (3) 前2号の調査及び研究結果の発行
- (4) 前各号に掲げるほか、市長が必要と認めた業務

このように、藤沢市文書館条例第3条は、藤沢市文書館が所蔵し、また将来その収集保管保存を継続していくべき藤沢市にまつわる文書館の資料が歴史資料および行政資料であり、それらを収集整理保存研究並びに一般への閲覧を業務として行うことを規定している。言い換えれば、文書館条例第3条は、文書館が行う業務とは、藤沢市の誇り、藤沢の宝の収集整理保存及び一般への閲覧提供であることを明

示しているのである。

藤沢市民をはじめ多くの関係者により藤沢市にまつわる行政資料や地域文書について、これから先も確かな収集保管保存利用提供を求めようとする市民や関係者の思いがここに集約されているとみるべきであろう。

■藤沢市文書館関係例規類をみる

DJI レポート前号(No.136)で、藤沢市文書館(以下「文書館」)の今後を含む、藤沢市民会館建替にむけた『OUR Project マスタープラン* (生活・文化拠点再整備基本計画) 令和5年12月藤沢市(以下マスタープラン)』中4頁欄外に「行政文書の保存、管理、利用等の業務…は文書館の基幹業務として継続」する旨が付記されたことを紹介した。まずはこの文言の意味について考えてみよう。

今一度、マスタープランの4頁欄外に付記された文章を確認のために次に示す。

行政文書の保存、管理、利用等の業務については、後述のコンテンツリストに記載はありませんが、文書館の基幹業務として継続します。

この文章は、藤沢市文書館は、マスタープランが提唱する市民会館建替プロジェクトに当初予定通り包含されることは示していない。マスタープランに掲載された「後述のコンテンツリストに記載はない」という文面からは、文書館はこれまで通り「行政文書の保存、管理、利用等の業務」、すなわち現用・非現用の行政文書の保存、管理、利用等の業務を今後も藤沢市文書館の基幹業務として継続するという藤沢市の姿勢を示したものと理解できる。

■藤沢市の公文書管理条例の改正にむけて

東京都などの公文書管理委員会の委員で、弁護士の東洋大学法学部・早川和宏教授(行政法、かつて藤沢市公文書管理条例案策定にも尽力)は、「役人にとって公文書は目の前の仕事のためのものであり、保存する意識や歴史になるかもしれないという認識は薄くなりがちだ。公文書を管理する条例を制定し、監査・チェックの仕組みを作ることが必要だ」と話す。藤沢市でも実施条例としての公文書管理条例再整備を目指してほしい。

*OUR Project は藤沢市が進めようとする Okuda Urban Renovation Project Master Plan の略称。藤沢市南藤沢の奥田公園地域の生活・文化拠点再整備基本計画をいう。計画は下記 URL: ourproject_masterplan_202312.pdf (city.fujisawa.kanagawa.jp)

おもな内容

もっと考えよう! (2) 2023.12 master plan「文書館の基幹業務 考察」…1
散歩道・世界遺産知床斜里に行く…2

DJI レポート No.137 20240930

消息/文献/あしあと/活動 6.11~9.20…3
巻末随想①北方領土②BBQ③失せ物…4

【アーキビストの散歩道】世界遺産知床斜里を行く

北海道の知床斜里、網走監獄博物館、羅臼町国後島展望塔を訪ねる 3泊4日の旅行を計画したのは、昨年7月。だが夫婦ともコロナ罹患でやむなく断念し、2024年6月リベンジ旅行が実現した。

■世界遺産、知床斜里旅行

去年コロナで中止した知床斜里旅行のリベンジを、6月に実施した。6月16-19日の3泊4日夫婦旅だ

■友人訪問・網走監獄見学・国後島展望

数年来の念願、夫婦での北海道旅行は、網走監獄博物館見学と、斜里町に若い友人らを訪ねるのが目標。後から、国後島見学が追加となった。

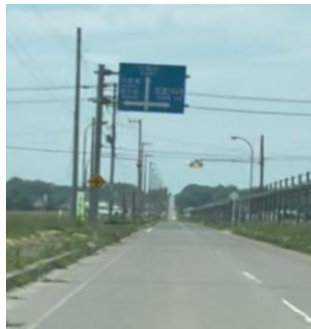
■手あたり次第博物館資料館見学

6月16日は到着して宿舎へと急ぐ。途中道路案内にたくさんの資料館博物館の名前が見えた。そこで17日は知床峠をこえて羅臼町から国後島を見る、18日は手あたり次第博物館資料館見学、最終19日は網走監獄見学と決めた。

手あたり次第の見学先：17日①植別校発祥の地碑②峰浜入口バスのりば③秀夫さんと喜美さんと出会う④羅臼国後展望塔⑤知床峠園地；18日①知床歴史博物館②清里町生涯学習センター(プラネット'97)町立図書館③大空町東藻琴ふるさと資料館；19日①フレトイ展望台(小清水町浜小清水)②瀧沸(トウツ)資料館(網走市北浜,閉館中)③博物館網走監獄

■天国につながる直線道路

ガイドブックに記されていた直線道路は、一か所ではなかった。山の上から谷へと下り、さらに次の山を登る直線道路は、知床斜里近辺そこそこにある。網走監獄博物館売店で入手した本(鎖塚)で、こうした道路が囚人労働で作られたことを知った。直線道路を進むと、およそ4kmごとに並木があった。それは、道路を開墾した人々によって残された原生林の名残なのだろうか。見渡す限りの広大な畑は、すべてジャガイモ畑のように見えた。宿を取った知床斜里駅の近くには、ホクレンの澱粉工場があった。ジャガイモからとれる澱粉は、食用のみならず、様々な用途に用いられるということだった。あの直線道路と澱粉工場の存在は、斜里町が観光地だけではないことを語っているようだった。



■知床峠のバードウォッチャーのみなさん

羅臼町から知床峠を越えて宿舎がある斜里町へ戻る途中のことだった。ちょうど知床峠の見晴台のあたりでは、キャンピングカーが何台も止っていて、カマを構えた人々が何やら崖下のあたりをのぞき込んでいた。何がいるのかな。と思ったら人々は一斉に反対側の崖下が見える位置へと移動し始めた。どうやらバードウォッチャーの一群らしかった。私たちに

はどんな鳥がいたのかは全く分からなかったが大勢のカメラマンが一斉に右の崖から左の崖へと移動するのに驚いた。知床は野鳥観察の場でもあるらしい。

■大空町東藻琴ふるさと資料館

カーナビに誘われこの資料館にたどり着いた。建物の中の広場に大型バスが止まっている。資料館入口は施錠、「見学希望者は電話を」とあるので電話した。担当者は自転車で現れた。カギが見当たらず額に汗。バスの運転手さん「休憩室から入って開けてやるよ」。担当者は「ごゆっくり」と言って自転車で戻った。その後1時間余り、無料貸切見たい放題で「大空町東藻琴ふるさと資料館」を堪能した。収集資料の質量はともに素晴らしい。展示されていた資料リストもまた丁寧に作られていて、レベルが高い。無人の資料館となったのはなぜだろう。帰り際、担当者氏から「5月に来てください。大空町は芝桜公園がとてもきれいです。ぜひまた見に来てください」と誘われた。また来てみたい。なお、入口のカギは見つかったようだ。



■夏は道路整備の季節 キタキツネの姿も

斜里から羅臼町へと向かう道は、行きかう車も稀で穏やかな雰囲気だった。でも、結構頻繁に出会うのが道路の舗装工事の人々。春から夏にかけて、観光客も増えてくる前に、冬の間に傷んだ道路の舗装を補修している様子だった。まだ観光客も少ないこの時期は、道路舗装の修復にはもってこいの季節なのだろう。そんな人影が途切れたとき、道路のはるか向こうのほうに、白っぽいイヌみたいな、あ、キタキツネかな??が見えた。ちょっと嬉しかった。

■国後島展望塔

知床岬の根っここのあたりから海岸線を北に上る途中、国後島展望塔に寄った。展望塔だから山の上だが駐車場完備で、無料。国後島は日本の領土です、と看板があり、眼下に広がる羅臼の港の向こう側には黒々と国後島が見える。右から左へと視線を移すが、どこまで行っても国後島は終わらない。地図をみると、知床半島のずっと先のほうまで、国後島は続いている。国後島はとても大きい島だった。



■秀雄さん・喜美さんとの出会い

展望塔見学を終え海を右にみて北上する。海岸にでて国後島を眺めたいと思ったからだ。が、海岸につながる道は見当たらず、鬱蒼とした林が海岸の景観を隠している。ようやく林が途切れたのは民家が立ち並ぶ集落だった。山側には「植別校発祥の地」の碑があり、バス亭もみえた。車を降りて歩き回っていると現れた高齢男性に声をかけられた。国後島を見たくてここまで来たことを告げる。男性は国後島

の人だった。男性の妻もやってきて、うちでコーヒーを飲みましょうと勧められた。男性は秀雄さん、女性は喜美さんで、ともに国後出身だという。数年前のビザなし渡航で国後に行こうと思ったけど果たせなかった喜美さんは、故郷国後を懐かしむ。目の前に大きく黒々と広がる国後島が二人の故郷。そんな

な思いを抱きながら羅臼に暮らす秀雄さん喜美さんとの出会いはまさにこの旅行のハイライト。喜美さんは庭先に群生するスマレを一株掘って、お土産にと持たせてくれた。余談ながら、いただいたスマレは3日ばかりで湘南の我が家に連れ帰ったのだが、この夏の猛暑を乗り切れなかった。残念。(ち)

●●アーキビストの消息■機関●個人

- 2024年3月31日付
- 堀内謙一氏 埼玉県久喜市公文書館 退職
- 2024年4月1日付
- 松本市文書館長 館長 石川善啓氏
- 林美帆氏 岡山文理大学准教授

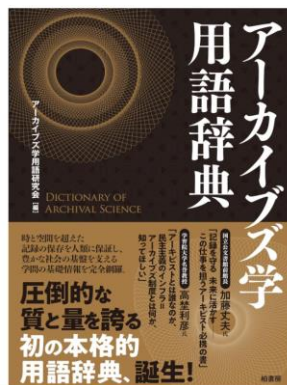
●訃報 伊藤 隆氏(東京大学名誉教授) 8月19日死去。日本近現代政治史の第一人者で、保守論客としても知られた歴史学者。私は1975-1987の12年を費やした東京大学百年史編集業務で大変お世話になった思い出尽きず。享年91。合掌。

●やぶにらみ文献紹介●◆▼●◆■ ●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●

●アーカイブズ学用語辞典

8月初め、本書の発行を知った。ちょっとドキドキしつつ、送付された本書を手…感無量だ。

1997年大阪大学出版会発行の『文書館用語集』が、長くこの分野の唯一の用語解説書だった。21世紀に入り、文書館を取巻く環境が情報公開や公文書管理等の法制度、認証アーキビスト等の資格制度により大きく変化した。



そうした現代の事情を踏まえ、今『アーカイブズ学用語辞典』と題する約500頁の書が出版されたことは誠に喜ばしい。編者「アーカイブズ学用語研究会」(代表幹事 下重直樹)のご尽力に心底敬意を表す。今後は、アーカイブズ学関係者なら誰もが本書に大いにお世話になることになることは確かだ。

A5判 476頁 定価 8,000円+税
2024年8月発行 柏書房

●千代子のあしあと●◆▼●◆● ●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼●◆

- ▼DJIレポートNo.137 20240930A4判4頁(本誌)
- ▼会員制メルマガ ナスの日通信 7月号 20240717; 同9月号 20240917。
- Reports on Cassado Music Manuscripts of Tamagawa University Museum of Education

July 4 and July 16, 2024 A4判18頁
■緒方資料整理海外アーカイブボランティアの会 2024 作業報告会(口頭報告), UNHCR 本館地下会議室, 20240906 午後3-4時, 記録管理アーカイブ課 5名参集, ジュネーブ

DJI 国際資料研究所の主な活動 2024年6月11日~2024年9月20日

- <執筆>
- DJIレポート No.137 20240930 A4判4頁PDF(本誌)
- ナスの日通信 7月号 20240717; 9月号 20240917
- メルマガ配信
- <主催>
- 8月3日 湘南BBQ 9名参集
- 9月6日 ボランティア活動報告会、UNHCR 地下会議室
- <参加>
- 8月26日~9月6日 UNHCR 国連難民高等弁務官事務所アーカイブ資料整理ボランティア、ジュネーブ、スイス
- <見学>
- 6月16日~19日 北海道網走監獄博物館、大空町東藻琴ふるさと資料館、清里町立図書館、斜里町歴史博物館、そば処福住、羅臼町国後島展望塔、等見学
- 7月4日、16日 玉川大学教育博物館 カサド楽譜資料(画像閲覧) 8月1日 国立国会図書館楽譜資料調査
- 8月24日 スイス連邦公文書館外観見学、ベルン、スイス

- 8月31日-9月1日 ホーム・デザイン見学ツアー、フランス
- 9月4日 赤十字赤新月社博物館、アリアナ美術館 内品川寺鐘楼、ジュネーブ州公文書館、宗教改革博物館 見学、ジュネーブ
- 9月6日 パテック・フィリップ時計博物館、ジュネーブ
- <その他>
- 6月3、10日、7月1、8、15、29日、8月5、12、19日、7月4日、16日、8月1日 玉川大学教育博物館所蔵ガスパール・カサド楽譜資料調査、終了。
- 6月9日 八雲オーケストラ定期演奏会、中野セミナル、東京
- 9月4日 シカノさん、トモコさん、海外ボランティアの会メンバー4名会食、湘遇(中華料理)、ジュネーブ
- 9月16日 ラウラ先生ルーマニア語お稽古 on-line
- <健康管理>
- 6月~9月 医療受診録 辻堂金沢内科クリニック4回、つるしげ歯科3回(7月20日閉院)、マリソル整形外科小7回、辻堂南口耳鼻科2回、星野眼科2回、介護保険ヘルパー6-9月 週1回1時間来

■ 卷末随想

● 国後島展望塔を訪れる人々～返せ北方領土～

6月の北海道旅行で訪れた国後展望塔は、思いのほか見学者が多いことが意外でもあり、印象深かった。展示室で見かけたヒトの中に、カジュアルなシャツで、このあたりのことをよく知っているガイドさんかと思われるいでたちの男性。同じような雰囲気の中語と思しき人を案内していた。日本語をよく理解しているようだっただけでなく、その目配りの様子がとても鋭くて、こちらが緊張してしまうような印象だった。もちろん、公開されている展望塔だから、だれもがここを訪れることができるのはアタリマエ。しかし、、、このガイドさんらしき人からは、なんだかとても厳しいオーラが感じられた。日本が国後島を展望する塔を設けていることだって、かなり緊張感だけど、そこに周辺国の皆さんがやってきて見学する、というのは、その緊張感をさらに高めるものになる、と気づかされた旅の一コマだった。私は「国後択捉歯舞色丹 返せ北方領土」等のスローガンはもう古い、と感じていた。だが、ロシア・ウクライナ戦争が現在進行形で展開されている現在、日本も対ロシア国境領土問題を抱えていることを、ちゃんと意識しておく必要があると改めて認識した。

● 素晴らしき湘南バーベキュー(BBQ)

8月3日、恒例の湘南BBQを開催した。我が家の庭先で、各自持参の食材を炭火焼きして楽しむという、なんということもないBBQの会だ。メンバーはあちこちでキーワード「アーカイブ」でつながった老若男女の常連メンバーが7名参集。8月の猛暑の下、アーカイブ談義に花が咲いた。今回、どういうきっかけか忘れたが、「なぜ

残すのかを巡り「アーカイブ」というテーマで自然発生的討論会が始まった。なぜ残さなければいけないのか、どんどん捨ててしまっただけでは何がまずいのか、かなり根源的な視点で、クーラーをきかせた室内で結構熱い議論が盛り上がった。アーカイブ非専門家からも、残すということについて、実は我々の日常でも常に葛藤しながら判断を下していることが指摘された。オタク的アーカイブ議論から浮かび上がった日常は素晴らしかった。

● ジュネーブ旅行-数々の失せ物覚書

8月下旬から9月第1週まで19日の行程で、恒例のジュネーブ旅行に出かけた。幸い体調は問題なく、まあまあ元気に過ごしてきた。が、忘れ物、失せ物の失敗が何度かあった。旅行中の失せ物で困るのは①パスポート②ケータイ③クレカだろう。その全部が旅行中に1度は「失せ物」になった。トイレにケータイを忘れてきたこと2回(羽田空港、時計博物館)、空港保安検査場でパスポート(と搭乗券)をトレイに置いてきたこと1回(帰国の途に就いたばかりのジュネーブ空港)、UNHCR 食堂でクレカの上にハンカチを置いたために見失ったこと2回、などである。特にパスポート置き去りをやらかした時には同行の友人から「必ず振り返って確認する習慣をつけなさい」と厳しく助言された。気を付けてるつもりでも、これがむづかしい。振り返って確認、これが実行できない自分があることを、私はいつも忘れる。こんなことでは、もう旅行に出かけられなくなる日も遠くないのかと、かなり落胆した。だが、こんなに良く忘れるのだから、失せ物のことなどすっかり忘れてまた出かけたくなるのだろう。次はどんな失せ物するのか、私。(ち)